発行:2026 年 6 月 22 日

# 会 議 議 事 録

| | | | |
|---|---|---|---|
| 会議名 | 2026 年度第1回<br>東京工科自動車大学校三校<br>教育課程編成委員会 | | 専門学校 東京工科自動車大学校<br>専門学校 東京工科自動車大学校世田谷校<br>専門学校 東京工科自動車大学校品川校 |
| 開催日時 | 2026年6月12日（金） 15:00 ～ 17:00 | | |
| 会場 | 専門学校東京テクニカルカレッジ（姉妹校）<br>テラホール（B1） | | |
| 参 加 者 | 委員 | 23名 | 【出席者 18 名】<br>◇1 級教育課程分科会<br>・園田 幸祐（1 級分科会議長） ・松村 道隆 ・吉岡 晃（書記）<br>・黒田 優人 ・鈴木 信行 ・在田 泰彦 ・保田 正義<br>・宮谷 真樹(オンライン参加) ・久木山 直樹（代理）<br><br>◇2 級教育課程分科会<br>・佐藤 康夫（全体会議長、2 級分科会議長） ・髙橋 拓也<br>・澁谷 健（書記） ・佐藤 岳人 ・奥山 美都留<br>・国分 秀貴 ・山岸 幸弘 ・池田 昌繁 ・清 宏一郎<br><br>【欠席者 5 名】<br>遠藤 史統 ・鈴木 清明 ・蓬田 誠 ・伏見 一洋 ・橋本 望 |
| | 事務局 | 4名 | ・荻野 洸介 ・村山 健<br>・和泉 明日香（全体会書記） ・田中 健司 |

―――――――――――――― 全体会 ――――――――――――――

**全体会**
**配布資料**

〈配布資料〉
・議事次第
・資料A・・・全体会説明資料 （パワーポイント）
・資料B・・・前回議事録

**委員長挨拶**

荻野部長より、本日のスケジュールや全体会・分科会の会場についての説明があり、その後、佐藤委員長に進行が引き継がれ、全体会が開始された。
冒頭、佐藤委員長より、教育課程編成委員会の意義や目的の説明と、自動車分野の要請に即したカリキュラム作成への協力依頼をした。
また、学園内の大きな変化として、①組織変更、②教務日程の変更（5期→4期）を報告した。
②は、文科省の方針で時間制から単位制へ移行する必要が出たためである。

**2026 年度委員について**

資料に基づき、全体会、1 級分科会、2 級分科会のメンバーを確認した。今年度は学園の組織変更にともない、新たに 4 名の教員が学内から委員として加わることとなった。また、小林祐氏の代理として久木山直樹氏がお越しになり、ご挨拶をいただいた。

**2025 年度学校運営の実績報告**

（就職実績報告）
就職実績について報告を行った。3月末時点では学内システム上の就職率（進路決定率）は100%に到達していたものの、3月に中野校の学生1名について、運転免許の取り消しに伴い内定取り消しとなった事例が発生したため、実質的な就職率は99%となった。今年度はこのような事例が発生しないよう、学生指導をより一層徹底していく旨の説明があった。

| | |
|---|---|
| | （整備士合格実績報告）<br>資料の表を基に、二級自動車整備士および一級自動車整備士の合格状況について詳細な報告を行った。<br><br>今年度は一級自動車整備士の合格実績が例年と比較して低調な結果となった。今年度の国家試験については全国的に平均点が低下していたものの、他校では本校ほど大きな変動は見られなかったことから、結果を真摯に受け止め、次年度に向けて改善を図る必要があるとの説明があった。具体的には、対策講座における追い込み指導の強化や学生のモチベーション維持に向けた取り組みなどを検討し、合格率向上を目指していく方針が示された。<br><br>また、二年制課程については、留学生数が増加している状況下においても、例年どおり99～100%程度の高い合格率を維持していることが報告され、引き続き現在の取り組みを継続していく方針が示された。 |
| **国土交通省<br>文部科学省関連<br>の対応について** | 国土交通省及び文部科学省関連の制度改正等について、以下の説明がなされた<br><br>（国土交通省）<br>資格制度については、前回の委員会でも報告したとおり、資格名称の変更、教科書の更新、訓練時間の見直しなどの制度改正が既に実施されていることが報告された。また、松村委員を中心として、現在は1級課程において、これらの制度改正に対応したカリキュラムの見直しを進めている旨の説明があった。<br><br>（文部科学省）<br>大学等と同等の教育機関として認められていく中で、第三者による外部評価の受審が義務付けられる見込みであることについて説明がなされた。これまでも学校関係者評価や教育課程編成委員会などを通じて、職業実践専門課程の質保証に取り組んできたが、今後は完全に外部の評価者による審査が求められることとなる。<br><br>第三者評価については、専門学校は5年に1回のペースで受審する必要があり、特に高度専門士を設置している学校については受審が義務となる見込みであることから、自動車系専門学校の多くが対象となることが報告された。<br>一方で、第三者評価を担う評価機関や評価者の不足が課題となっており、受審を希望しても順番待ちとなる可能性があることから、JAMCAにおいて第三者評価を実施できる体制整備が検討されている旨の説明があった。<br><br><br><br><br>以上<br><br><br> |

| | |
|---|---|
| **1級分科会** | ―――――――――――― 1級教育課程分科会 ―――――――――――― |
| **配布資料** | ＜配布資料＞<br>●令和8年第2回一級教育課程分科会議事録資料<br>●1級自動車整備士総合新カリキュラム（案）<br>●1級自動車整備士総合教科書PDF資料（閲覧のみ） |
| **報告事項** | **1．　協議内容について及び参照資料についての説明**<br><br>（園田議長）<br>人事異動に伴い、今年度からメンバーも一新されたため、議長より学校側の新任者の紹介がなされ、分科会議事が開始された。<br><br>（松村副議長）<br>教科書内容の省略および新技術等の刷新項目に最適化し、来年 4 月からの新授業開始に向けてカリキュラム再構築を予定。関係省庁の定める規定基準（必須 889 コマ）に対し、学校到達目標として 918 コマ（充足率 103%）の設定を行うことで、補講や内容の拡充に対応する 3%（29 コマ）のバッファを確保した設計とする。（現時点）<br>単位・時間設定の基準構造学則および単位計算規程に基づき、1 時限を 45 分として以下の基準で時間・単位を算出。授業区分単位換算基準備考講義科目 15 コマ ＝ 1 単位 1 コマ＝45 分換算実習科目 30 コマ ＝ 1 単位講義の 2 倍の時間数を設定。<br><br>副議長から上記の説明がなされた。 |
| **協議事項** | **2．　提供可能な体験及び研修内容についての意見**<br><br>（学外委員1）<br>前教科書とは内容がまるで違う、どっちらかというと、整備主任者の教科書に近い印象をうける。学校の授業でエーミングや検査業務（検査員）、自動運転に関する内容は教育可能なのか。<br><br>（松村副議長）<br>これらの内容を学校独自で構築することは難しいと考えている。各企業様のご協力が必要となる。<br><br>（学外委員2）<br>実車を使い、実際に走らせないと理解できない内容も多数含まれていると感じた。<br>ちなみに、コネクテッドに関する内容は、2級教科書には掲載されているのか。<br><br>（松村副議長）<br>2級教科書には掲載されていない。<br><br>（学外委員3）<br>内容を確認したかぎり、学校及び教員の負担増となるのではないか。<br>多角的な視点で協議し、協力できるところはしっかりとお力添えしたい。 |

| | |
|---|---|
| | （学外委員４）<br>新教科書の内容は整備士の知識として必要な事だと考えるが、実際の現場で低頻度と感じるものもある。FCVは実際の現場で必要なのか。<br><br>（松村副議長）<br>教科書の内容は、カリキュラムを構築する上で必ず網羅する必要がある。<br>今回ご提示したカリキュラム案は、つい先日完成したばかりである。<br><br>（学内委員黒田）<br>世田谷校は特化科目が多いため、現在の案より科目数を増やす必要があるため、当校の科目充足率は増える見通しである。<br><br>（学内委員鈴木）<br>テレマティクスについて、各企業様の車両での体験を行うことは可能か。<br><br>（学外委員１、２）<br>テレマティクスは車両により標準仕様のものもある。<br>最初契約、みまもり、通信、故障診断車両が無くても遠隔で情報がわる。<br>物理的な鍵は必要ない。これらについてはユーザー側からの目線が強いのではないか。ただ、整備士として知ってないといかないとだと思う。<br>おっしゃるように他のメーカーとの比較、体験が必要だと思う。<br><br>（学外委員４）<br>テレマティクスについては、EVの方が充実されている。充電スポットの位置情報などを取得する際必ず必要となる。<br>また、車両を遠方からスマホで操作可能。<br><br>（学外委員１）<br>これらの体験の協力は可能だと考える。<br>ちなみに、あるEVメーカーでは、定期的にアップデートを行い、サブスクで様々な仕様を変更できるものもある。<br><br>（学内委員黒田）<br>世田谷MBコースの車両は遠隔操作可能。教材として１級の内容で活用できるものもある。<br><br>（園田議長）<br>あらたに教科書に掲載された、二輪の内容DCT（デュアル・クラッチ・トランスミッション）についても課題がある。実車の調達を踏まえて考える必要がある。<br><br>（学外委員２）<br>①実習車などの教材については、3校統一のもので行われているのか。<br>②水素自動車などに関するものは3校同時に、まとめての実施がよいのではないか。<br>③年間教育で3月は授業が入っていないようだが。<br><br>（松村副議長）<br>①3校同一ではない。<br>②企業様にそのような形でご協力いただければありがたい。<br>③国家試験日程に合わせ、年間スケジュールを組んでいる。1年生、3年生も同じ予定でスケ |

| | |
|---|---|
| | ジュールを組んでいる。<br><br>（学外委員1）<br>1年生、3年生は国家試験がないため、その間の授業を考える必要があるのでは。<br><br>（松村副議長）<br>おっしゃる通りであり、国家試験以外の資格取得の時間に充てるべきであり、考える必要がある。<br><br>（学外委員3）<br>資格試験の過渡期であり、スケジュール大きく変更したことに学生に混乱はないか。<br><br>（園田議長）<br>大きな混乱はないが、授業内容が大きく変わる内容もあるため、逆に教員側の授業準備が心配である。<br><br>（学外委員1）<br>国家試験において、今までのバッファがなくなる部分が課題となるのではないか。<br><br>（園田議長）<br>2級に関しては問題が初となるため、見えない部分が多い。1級については、試験実施から1年のブランクがある。しかし、校としては全ての可能性を踏まえ対策していく必要があると考えている。<br><br>（学外委員3）<br>まずは学生へのフォローアップが必要ではないか。現段階では手探り状態であるので、皆で協力して行う必要があると考える。<br><br>（学外委員1）<br>学校でできない事を我々企業へお伝えいただければ、できる事を提供していく方向で<br>協力したい。 |
| **まとめ** | **3．新カリキュラム構築に必要な要素と次回議題の方向性まとめ**<br><br>（園田議長）<br>次回議題の方向性として、以下の内容を踏まえて検討する。<br><br>Ⅰ．カリキュラムについては、必須項目を網羅した今回のカリキュラム案をベースとして<br>進めてゆく。<br><br>Ⅱ．第2回教育課程編成委員会までに1級課程全体の科目を確定し、具体的なカリキュラム内容を協議する。<br><br>Ⅲ．会議資料については、1級分科会委員へ事前共有をする。 |

| | |
|---|---|
| **会議風景** |  |

| | |
|---|---|
| **2級分科会** | ―――――――――――― **2級教育課程分科会** ―――――――――――― |
| 配布資料 | **配布資料の確認**<br>・資料１．3校自動車整備科・科目配置<br>・資料２．就職対策講座・コマシラバス案 |
| 議長 | **議長挨拶・委員紹介**<br>- 学園人事異動による学内委員、議長・副議長の交代について説明 |
| 審議事項 | **１．二級新カリキュラム進捗報告（継続）**<br>議長より整備士資格制度の変更に伴う新カリキュラムの概要説明ならびに進捗状況について説明を実施。1年生授業は昨年度結果を受けたアップデートを行ない、今年度より始動した２年生の授業準備は計画どおりに進行している事、また今回、２年生のシャシ実習には学外委員からもかねてより要望があった「タイヤ空気充填特別教育」の内容が盛り込まれた事を報告した<br><br>■ 意見等<br>- 特になし<br><br>**２．次年度4期制に伴う就職対策講座の改編について（継続）**<br>前議長より前回分科会の振り返り、従来の年間就職支援の取り組みならびに今年度の就職対策講座コマシラバス案を示し説明を行なったあと、内容について意見交換を行なった<br><br>■ 意見交換まとめ<br>１）筆記試験について<br>・整備職の採用試験では離職防止の観点から学力試験より性格・適性試験を行なう企業が多い<br>・一方、SPIは学内データとして有効であるため実施時期を再考したい<br>・作文演習において留学生については事前の底上げが必要と考える<br>２）面接試験について<br>・面接時の質問項目は受験生に、また不合格理由は可能な限り企業にヒアリングしている<br>・声量確認のため、面接練習は広い部屋想定で行なった方がよい<br>３）その他<br>・履歴書は新卒採用の場合、人物評価の観点から手書きを推奨する企業意見が多い（学校は手書きで指導。企業はES、訪問時アンケートで判断している場合もある）<br>・学校でAIポリシーを掲げている事は企業へのアピールポイントになる |

| | |
|---|---|
| | ■ 結論・課題<br>本件は今後学内にて下記について検討・改善を進め、メール等で共有を図る<br>・採用試験講義内容の見直し<br>・SPI の実施時期と活用法<br>・留学生の文書作成力を強化する事前学習<br><br>**３．その他：学校への要望について**<br>・自動車そのものへの興味関心を醸成・強化して欲しい<br>・自動車整備士の仕事のやりがい、楽しさを伝えて欲しい<br>・自動車業界で働く事の意義、魅力を伝えて欲しい<br>学校からは通常授業、プロジェクトセミナーを通した知的好奇心の醸成に努める事を回答<br><br>以上をもって閉会とした |
| **会議風景** |  |